



青年海外協力隊 平成17年度1次隊 派遣前研修

### 国際理解教育の勧め： 現職派遣教員ならではの活躍に向けて

小原 豊 (Yutaka OHARA)  
CRICED, University of Tsukuba

### はじめに

- 派遣現職教員に期待されていること
- 国際理解教育の勧め
- インターネットライブ授業とは何か(事例1)
- 国際交流授業とは何か(事例2)
- おわりに: 今日から始められること

### 派遣現職教員に期待されていること (1)

途上国において、言語・文化の壁等乗り越え、教育協力を実践することにより教員の質が向上し、日本の教育現場においても様々な効果が期待される。

コミュニケーション  
能力の向上

こう説明すれば、分かってもらえるよね！

**分かりやすい授業の実施**

概念化能力の  
向上

じゃあ、こういう問題にはこうにアプローチしてみたらどう？

**問題解決的な  
学習活動への対応**

### 派遣現職教員に期待されていること (2)

日本の教育  
の再認識

ふむ、ここは、こんなやり方でやってみようか！

他国の教育経験に照らした  
**日本の教育の質向上**

異文化理解  
の向上

途上国では、こんな生活をしているんだよ、何が出来るかな？

**「内なる国際化」の実現**  
(教師、児童・生徒含む)

参照URL ( [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/genshoku/05030701.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/genshoku/05030701.pdf) )

### 派遣現職教員に期待されていること (3)

<任地での現実>

要請された内容を粛々と行っていく  
役務提供者としてしか活動できないのか？  
現職のアドバンテージは活かせないのか？

<派遣現職教員のアドバンテージとは何か>

日本での豊富で良質な教育経験  
経験豊かさからくるリーダーシップ  
日本の教育現場とのつながりをもつ

### 経験の共有に向けて

<日本で準備しておくこと>

日本の文化・生活を任地に紹介できる資料収集  
eアーカイブに集積した拠点システム成果の利用

<任地で準備しておくこと>

任地での文化・生活を日本に紹介できる資料収集  
派遣中: 日本への定期的な発信 (ex. × 国便り)  
帰国後: 国際交流授業での利用  
ICT能力拡充研修による情報集積・発信技能獲得

## 国際理解教育の勧め

< 国際理解教育とは >

我が国の文化と伝統を大切に、郷土を愛する心を培うとともに、諸外国の人々の生活や文化に対する理解を深めこれを尊重する心を養うことによって、進んで国際社会に貢献できる能力の伸長を図る教育。

学校における「総合的な学習の時間」において  
学外における地域でのワークショップにおいて

## インターネットライブ授業とは？

リアルタイムで途上国とわが国の教室の子どもたちの対話の実現を通して鮮明な異文化体験の機会をつくり出す授業。

派遣現職教員の蓄えた経験、培った語学力、得た教訓をもってはじめて実現できる。

## インターネットライブ授業の特徴

世界の学校の様子をパソコンとインターネットを使用して同学年の児童・生徒が対話できる。

同年齢の外国人との出会いを face-to-face のコミュニケーションで楽しむことができる。

例えば、お互いの国のどんなことに興味があるのか、どんな夢を持っているのかなどを子どもたちが伝え合うことによって、グローバルな視野をもつ機会が提供できる。

## 長野県小諸市 - カンボジア・ バタンバン州 インターネットライブ授業 (1)



## 長野県小諸市 - カンボジア・ バタンバン州 インターネットライブ授業 (2)



授業者：14年度カンボジア派遣 小諸市立美南が丘小学校教諭・中山晴美先生  
15年度カンボジア派遣 ワットカンベイン小学校 阿部康裕先生

参照URL ( <http://www.criced.tsukuba.ac.jp/jocv/internetlive.html> )

## ライブ授業の問題点

任地の情報利用環境が必要なこと  
(JICA Net など JOCV事務局による協力)

勤務校との調整、必要な機材調達とセッティング  
(筑波大学CRICEDによる全面バックアップ)

ライブを進めるのなら、日本と派遣国の時差が前後5時間くらいがリミットとなる。

映像を web上にVTRを保存して、授業時間に視聴する形でのコミュニケーションも可能。

## 国際交流授業とは何か？

青年海外協力隊OVや派遣国関係者を招いて懇談の形で異文化交流を進める授業(主として帰国後の活動)。

近接の大学や研究機関、あるいは高等学校などで交換留学生として学んでいる学生や協力隊OVが、希望校を訪問し、自国(派遣国)紹介のプレゼンなどの形で授業に参加する。

web上でのやりとりではなく、人間対人間の生身の国際交流が実現できる。

## 静岡県沼津市原小学校における ホンジュラス文化経験授業(1)

ホンジュラス国立演劇学校長 文化庁招聘研究生  
Jose Luis Recinos氏を招いての異文化交流

外国との比較の視点を取り入れた地域学習  
合言葉「私たちのふるさと 原 のよさをみつけよう」

帰国隊員による通訳と意思疎通に欠かせない配慮

参照URL (<http://www.criced.tsukuba.ac.jp/jocv/project/ikuta.pdf>)

## 静岡県沼津市原小学校における ホンジュラス文化経験授業(2)



授業者:14年度ホンジュラス派遣 沼津市立原小学校教諭 生田佳澄先生

## 愛媛県松山市石井小学校における 松山 - ホンジュラス・ダンリ間絵手紙交換



14年度ホンジュラス派遣 松山市立石井小学校教諭 藤井田美代先生

## おわりに: 今日から始められること

学校現場(自分の勤務先)との連携を強化すること

eアーカイブを通して必要な情報を獲得すること

情報収集・加工・発信に必要なICT技術を習得すること

## おわりに

1年9ヶ月間の派遣期間を得て、  
更にプロフェッショナルになられた先生方が  
日本と途上国の教育現場を  
広い視野から架橋して下さることを  
心より期待しています。